

《感想文》「世界はうつくしいと」を読んで

アクトン 中三

私が最初に感じたことは、なぜ、作者はすごくあたりまえのことをうつくしいと言っているのだろうかということだけだった。しかし、先生やクラスメイトたちと詩を読み進めていくと、私は大きな点に気がついた。作者が「うつくしい」と言っているのは、すべて一瞬で終わることであつたと私は気がついた。例えば、「風の匂いはうつくしいと。溪谷に石を伝わってゆく流れはうつくしいと」。それらはすべて一瞬で終わる、過ぎていくことだ。



そのことがわかると、以前は思いつかなかつたことをたくさん思いついた。あたりまえのようで、あたりまえではない、日常で起こっている普通の出来事を見たり、観察したりすることはとても幸せだと。思いがけない日常はとても幸せだと。数々の発想が一気に浮かんできた。しかし、作者がうつくしいと言っていることはすべてうつくしいという訳ではない。例えば、「さりとて老いてゆく人の姿」は「うつくしい」のだろうか。人間という生き物は、最初はずごく幸せでも、次第にいろいろと失っていく儚い生き物だが、作者はそれをうつくしいと言っているのか。

そして、詩の中には急にリズムが変わる部分がある。「一体、ニュースとよばれる日々の破片が、私たちの歴

史というようなものだろうか、あぎやかな毎日こそ、私たちの価値だ」その短い部分で私の考えはまた広がった。私は作者の言いたいことがすぐに分かつた。作者は、私たちは今、ニュースやテレビなどを見て、それが私たちの歴史だと言っている。しかし、それは違う。私たちが普段、日常で見ているもの、やっていること、それが私たち、みんなそれぞれ歴史だ。同じ人間なんじゃない。私たちはみんな違うからこそ、みんなそれぞれの人生はとても儚く、うつくしいのだ。この世に永遠なんてない、「いつかはすべて塵にかえってしまう」のだから、人生で過ごしている一刻一刻の時間を大切に、「うつくしいと言おう」と作者は言いたいのだと私は思う。

【評】最初の授業で学習した詩について、表現の特徴や変化から気づいたことをもとに豊かに発想を広げています。作者の想いに迫り、それを力強く文章にまとめることができました。

《生活文》なりきり書こう

アクトン 小四

みかんの木（植物五さい）  
わたしの一日の中で一番すきな時は、お母さんがあたたかい朝にお庭に出してくれる時です。

お母さんがわたしにお水をくれた後、お日様をあびて、すっきりします。

今日はとてもあたたかい日なので、たくさんお水をくれて、お日様をたくさんあびて、お母さんがいっしょにおしゃべりしてくれました。何日かたつた後、わたしの木にはたくさん美しいみかんの実ができました。



お母さんが一つ食べてくれて、「おいしいな。」

と、言ってくれました。  
明日の天気を楽しみで、たくさんお日様をあびて、たくさん水を飲めたらいいなと思いました。  
【評】みかんの木が幸せに育っている様子が文章からとてもよく伝わりましたよ。

《感想文》「シンシユン」を読んで

フレント 中一

『シンシユン』のシンタとシンタのように二人とも違う意見があることはあります。話しているとき、気まぎくなることもあります。話します。たとえば、二か月前に友達とおとまり会をしました。テレビをつけて、何の映画を見たいか聞きました。そうしたら友達か怖い映画を見たいと言つてびっくりしました。私は怖い物は嫌いなので見たくないと言つたら笑われてしまうと思つて黙っていました。

私はシンタが自分の意見を言えなかつた悔しさがとてもよく分かります。時々言いたいことが言えないときはある。相手を傷つけないことや、相手と違つたところを発見することが怖いと思つてしまつても、自分の意見は大事だと『シンシユン』を読んで思ひ出しました。黙っているよりもどうして自分は相手と違う意見なのかを話したほうがいいと思います。どんなに意見が合つても、みんな違う人間です。  
【評】同じ中学一年生のシンシユンの話と、自分の経験をふまえて丁寧に読み取ることができました。

